

ぶどう新品種「ハニービーナス」の特性

1. 試験のねらい

本県で栽培されているぶどうの品種は「巨峰」が大半を占めており、黄緑色のぶどうは「ネオ・マスカット」や「ロザリオビアンコ」などが一部に栽培されているにすぎない。ぶどうの販売価格の低迷や観光直売の増加などから、「巨峰」と異なる果色の優良品種が望まれている。そこで、黄緑色品種の「ハニービーナス」の特性を明らかにした。

2. 育成の経過および来歴

ぶどうの新品種「ハニービーナス」は、農林水産省果樹試験場カキ・ブドウ支場において、「紅瑞宝」に「オリンピア」を交配して育成された四倍体の品種で、平成10年に命名登録された。当場では平成4年から「ブドウ安芸津19号」の系統名で導入し、試作検討を行った。

3. 特性の概要

- (1) 樹勢は強く、催芽期は「巨峰」よりやや遅いが、開花期は「巨峰」とほぼ同時期である。また、萌芽のそろいが良く、花振るいが少なく結実性は良好である（表-1）。
- (2) 収穫期は盛りが9月中～下旬で、「巨峰」とほぼ同時期である（表-1）。
- (3) 果粒は短楕円で果皮色は黄緑色である。果房は円錐形で、果粒はやや密に着生する。果房重は平均268gと「巨峰」と同程度であるが、果粒重は7.6gでやや小さい（表-2）。
- (4) はく皮性は易で、果肉は崩壊性と塊状の中間で「巨峰」よりやや硬い。糖度は平均21.7%と極めて高く、酸度も0.44%と「巨峰」と同程度であり、食味は極めて良い。香気は、やや未熟の果実ではマスカット香に近く、成熟が進むとフォクシー香に近い良香になる。裂果性はない（表-3）。
- (5) 病害虫については、「巨峰」同様の防除を行えば特に問題はない。

4. 栽培上の留意点

- (1) 収穫期が遅れると果皮が褐変しやすいので、適期収穫に注意する。

5. 成果の要約

ぶどうの新品種「ハニービーナス」は、9月中～下旬に収穫される黄緑色のぶどうで、糖度が高く食味が優れる。

(担当者 果樹部 金原啓一)

表-1 生育特性

年次	樹齡	樹勢	催芽期 月. 日	開花期 月. 日			結実性 花振り	収穫期 月. 日		
				始	盛	終		始	盛	終
平成 6年	4	強	4.16	6. 3	6. 5	6. 8	少	—	9. 8	—
平成 7年	5	強	4.21	6.13	6.16	6.18	少	—	9.20	—
平成 8年	6	強	4.28	6.14	6.16	6.19	少	9.10	9.30	10. 9
平成 9年	7	強	4.16	6. 6	6. 9	6.12	少	9. 9	9.24	10.15
平成10年	8	強	4.14	5.29	6. 1	6. 4	少	9.10	9.17	9.25
5年間の平均			4.19	6. 7	6.10	6.13	少	9.10	9.20	10. 7
巨 峰			4.17	6. 7	6.10	6.13	多~やや多	9. 8	9.21	9.29

注. 巨峰は平成6~10年の平均値。

表-2 収量及び果実外観

年次	収量 kg/樹	果房重 g	果粒重 g	果房形	着粒程度	果粒形	果皮色
平成 6年	5.4	246	9.6	円錐	やや密	短楕円	黄緑
平成 7年	14.5	203	5.8	円錐	やや密	短楕円	黄緑
平成 8年	37.1	299	6.9	円錐	やや密	短楕円	黄緑
平成 9年	51.1	293	7.2	円錐	やや密	短楕円	黄緑
平成10年	80.2	301	8.4	円錐	やや密	短楕円	黄緑
5年間の平均		268	7.6	円錐	やや密	短楕円	黄緑
巨 峰		278	11.1	円錐	中	短楕円	紫黒

注. 巨峰は平成6~10年の平均値。

表-3 果実特性

年次	はく 皮性	果肉 特性	果肉 硬度	糖度 brix%	酸度 %	香気	渋味	裂果性	脱粒性	含核数
平成 6年	やや難	中間	やや硬	21.1	0.39	フォクシー	無	多	中	2.5
平成 7年	易	中間	やや硬	22.5	0.49	マスクット	無	無	中	1.3
平成 8年	易	中間	やや硬	23.2	0.39	マスクット	無	無	中	1.8
平成 9年	易	中間	やや硬	20.6	0.44	フォクシー	無	無	中	1.6
平成10年	易	中間	やや硬	21.0	0.49	フォクシー	無	無	中	2.2
5年間の平均	易	中間	やや硬	21.7	0.44		無	無	中	1.9
巨 峰	中	中間	中	18.4	0.51	フォクシー	無	無	中	1.3

注. 巨峰は平成6~10年の平均値。